
金色のミルイ

桜乃 春奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金色のミルイ

【Nコード】

N9197D

【作者名】

桜乃 春奈

【あらすじ】

普通の高校生だったはずの大地達。それがいきなり異世界へ飛ばされて！？ドキドキワクワク大地達の冒険記

第一話 朝は弱い

とたたたた・・・

あ・・・足音・・・

きつと、花梨だろうな・・・

カチャ・・・

控えめにドアが開く。

「大地！起きて！朝だよ！」

ドアを控えめに開けた割には大きな声で俺を起こす花梨。

でも、もう慣れっこだ。

「うるさいなあ・・・そんな大声で起こさなくてもいいって・・・」

俺は、わかぐさ若草 だいち大地。

そして、大声で俺を起こしたのは井上 いのうえ花梨 かりん。

俺と花梨は幼馴染で、親同士がとても仲がいい。

一緒に学校に行くから、自然に花梨に起こしてもらっている。

「早くしてよ。遅刻しちゃうじゃない。」

「え？」

遅刻？

今、何時だ？

壁にかけてある時計を見ると、長い針が5。短い針が8。|| 8時5分

鐘が鳴るのは8時20分。

家から学校までは歩いて約20分。

「やばい！」

俺は大急ぎで着替えだした。

ズボンに手をかけたところでふと気が付いた。

.....なんか忘れてるような.....

あっ！思い出した！

俺は後ろを向きながらゆっくりと名前を呼んだ。

「.....か・・・花梨？」

花梨は俺を見たまま固まっていた。

そして、俺の視線に気が付くと

「!っ大地のエロ!馬鹿!アホ!おたんこなす!変態痴漢―!」

と、言いたいことだけ言って部屋を飛び出していった・・・。

ってゆうか、最後の変態痴漢は違うだろ。

俺なんもしてないもん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9197d/>

金色のミルイ

2010年10月11日02時26分発行